

# 学校という集団生活の場で 子どもたちを守る

子どもたちの姿が消えた学校

## 学

学校の教育現場においても新型コロナウイルスの影響は大きく、町では感染拡大を防止するために4月15日から小中学校を休校としました。休校は最終的に5月17日まで継続し、約1か月超の長期にわたり、学校から子どもたちの姿がなくなりました。休校中もICTを活用したオンライン学習の一部導入や教員が作成した宿題を配付するなどして学習面を補っておりましたが、多方面から学校の早期再開が望まれていました。

5月14日、三重県の緊急事態宣言が解除されたことで県内の休校が徐々に解除され、町では5月18日から地区別の分散登校を実施しました。そして、5月25日から町内の小中学校の一斉登校を約1か月半ぶりに再開し、学校に元気な子どもたちの姿が戻ってきました。

子どもたちを守るための対策

## 再

開かれたとはいえ、子どもたちへの感染症対策は怠ることはできません。全校児童生徒と教員に配付したフェイスシールドやマスクの着用をうまく使い分けることで、感染対策をしながら学習指導の充実を図っています。また、手洗いの指導においても、小学校低学年の児童でも実践しやすいよう「手を洗っている間にハッピーパースデーの曲を2回歌えば30秒間の手洗いが行える」「手洗いで順番を待つ間もソニーシャルディスタンスを保つようにラインの後ろで順番を待つ」など細かな配慮が行われています。調理実習や楽器を吹くといった感染のおそれがある授業はしばらく振り替えられ、給食を食べる時も通常の向かい合って食べる形式ではなく、それぞれ前を向いてできる限り会話をせずに食べるようにしています。子どもたちが帰った放課後には、使用した机や椅子、教材などを教員が丁寧に消毒しています。

そして、約1か月半に及ぶ休校期間に行えなかった授業を今後どう取り戻していくか。単純な詰め込み授業にしたくない。行事の精選や工夫で子どもたちに大切な思い出を残してあげたい。そんな先生たちの思いから、この課題を乗り越えるために



### Interview

学校の状況によって、柔軟に感染症対策を行っています。今回の感染症対策によって、子どもたちが手洗いなどを習慣化できる良い機会となるように進めています。

菟野町校長会 会長  
菟野小学校長 館 弘己

1登校初日に元気に手を挙げる新1年生  
2手洗いの順番を待つ際もソーシャルディスタンスを確保3可能な限り間隔をとる教室4子どもたちが帰ったあと、入念に消毒作業を行う教員



### Interview

休校期間中は自宅で個人練習をしていました。夏のコンクールは中止になってしまいましたが、演奏会に向けて、みんなと練習していきます。

吹奏楽部 部長  
中竹心咲さん  
八風中3年

### Interview

休校期間、部活ができなかったことで自分の陸上への愛を再認識しました。これからは自分の目標に照準を合わせて、取り組んでいきます！

陸上部 部長  
山根稜平さん  
八風中3年



5間隔をとってストレッチを行う陸上部6体育館のステージ上を使用して練習を行うバスケットボール部7合奏練習はできないため楽器ごとの練習を行う吹奏楽部

## Column 02 マスク着用時の 熱中症に注意

マスクを着用していると心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇するなど、身体に負担がかかることがあります。夏場の高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあり、人と十分な距離が確保できる場合には、マスクを一時的に外すことも推奨されています。文部科学省は、体育の授業や部活動など負担がかかる運動時はマスクの着用を避けるよう促しています。



▲久しぶりの体育の授業で元気に走り回る子どもたち

## 中学校の部活動でも対策

ないよう児童生徒の発達段階に応じた人権学習も行っています。

## 中

再開し、運動部では「ボールやグローブといった用具類は活動後に消毒する」、「接触するようなプレーはなるべく避ける」など配慮した活動が始まりました。吹奏楽部などの文化部でも「使用した楽器は触れた部分を除菌シートで拭き取る」、「一部屋に大人数で集まるような活動を避ける」といった配慮のもと、活動を行っています。

運動部、文化部ともに夏に開催が予定されていた多くの大会が今年度は感染症対策のため中止となりました。何を目標に活動すればいいのか。今までどおりの部活動が許されるのはいつなのか。そのような不安を抱えながら、生徒たちはそれぞれに目標を見出し、仲間とともに部活動に取り組むはじめました。

令和2年度  
町内小中学校  
夏休み期間

8/1  
▽  
8/23